

2016年度湘南藤沢学会研究助成金成果報告書

多言語活動実践「世界のまど」

(公立小学校での研究授業の実施及び社会言語科学会での研究発表)

総合政策学部4年 木原香菜恵 豊田美穂 林友希

活動日程、場所

2016年9月3日(土) - 4日(日)
社会言語科学会 京都外国語大学

活動目的

2014年度より平高研究会内のグループで行っている研究を多くの人に知ってもらい、さらなる改善を行うため、成果をポスター発表の形式で発表した。学会では社会言語学や言語教育学に精通する研究者と意見を交換し、本研究の改善をはかると同時に、社会的意義を伝えることを図った。また外国語活動という名称でありながらほとんどの場合英語及び英語圏の内容に限定されている外国語活動の現状に疑問を投げかけ、今一度外国語活動の内容がどうあるべきかの再考を促すことを本活動の目的とした。

活動内容・成果

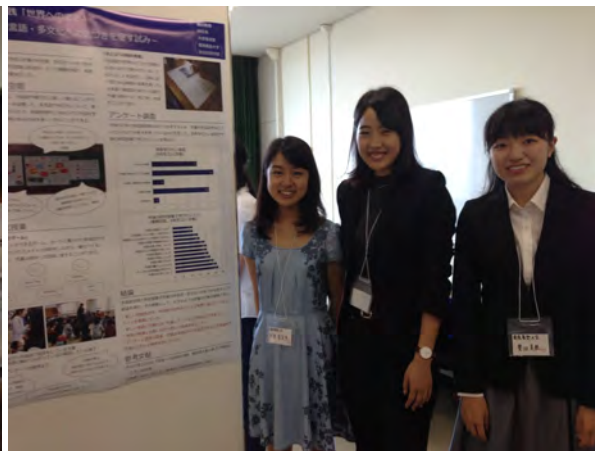
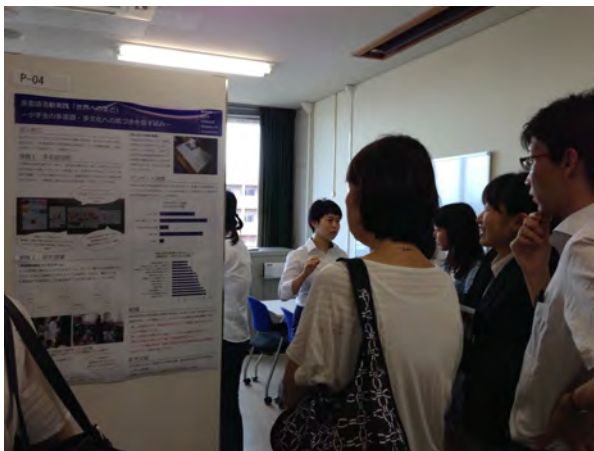
今回社会言語科学会にて発表した研究は、「多言語活動実践『世界のまど』」である。

グローバル化が進み、単一言語・単一文化社会と言われてきた日本にも様々な文化背景を持った人たちが訪れ共に生活をするようになった。このような現状があるにもかかわらず現在公立小学校で必修となっている外国語活動の授業では、外国語活動という名称でありながらほとんどの場合英語及び英語圏の内容に限定されている。世界の言語、文化に対する児童の意識が英語、英語圏に偏り、世界には数多くの言語や文化が互いに関わり合っているということを学べないのではないかという問題意識を抱き、これまで小学校でのフィールドワークを行ってきた。

小学校でのフィールドワークでは、多くの児童が利用する渡り廊下にて掲示教材「多言語空間：世界へのまど」の作成を行った。多言語空間には、児童が気軽に多言語・多文化に触れられる仕掛けを施した、世界の挨拶や早口言葉、外国の民族衣装を紹介するポスター、国旗クイズ、外国での生活をテーマにした写真集などの教材を作成、展示した。また、多言語空間をもとにした授業を6年生の児童36名を対象に二度行った。それぞれの授業では、多言語での挨拶と韓国語をテーマとして取り上げた。さらに、授業内で、児童の言語や文化についての意識も調査した。



学会2日目の午後、ポスター形式で発表を行った。発表時間は12:40-13:55。時間内に参加者が展示された数々のポスターを自由にまわり、発表者と参加者による質疑応答が行われた。



活動成果

あらゆる大学から教授や学生が集まり、意見交換を行った。データの分析の仕方を改善することや、児童の様子をより細かく観察することを発表を聞きに来た参加者に指摘されたことが特に印象に残った。これらの改善点を今後の研究にいかしていきたい。また、会期中は社会言語学に関するあらゆる研究に触れ、知見を広めることができた。

謝辞

本学会の参加にあたり研究のご指導をいただいた平高史也教授、及びフィールドワークに協力いただいた小学校関係者の皆様に深く感謝いたします。また、資金面でのご援助を頂いた湘南藤沢学会様に深く御礼申し上げます。